

「大学と地域・企業・横浜市との連携」事例数 平成 28 年度 800 件 突破（対前年度比 88 件増） 様々な区局事業への大学参画がさらに活発に！

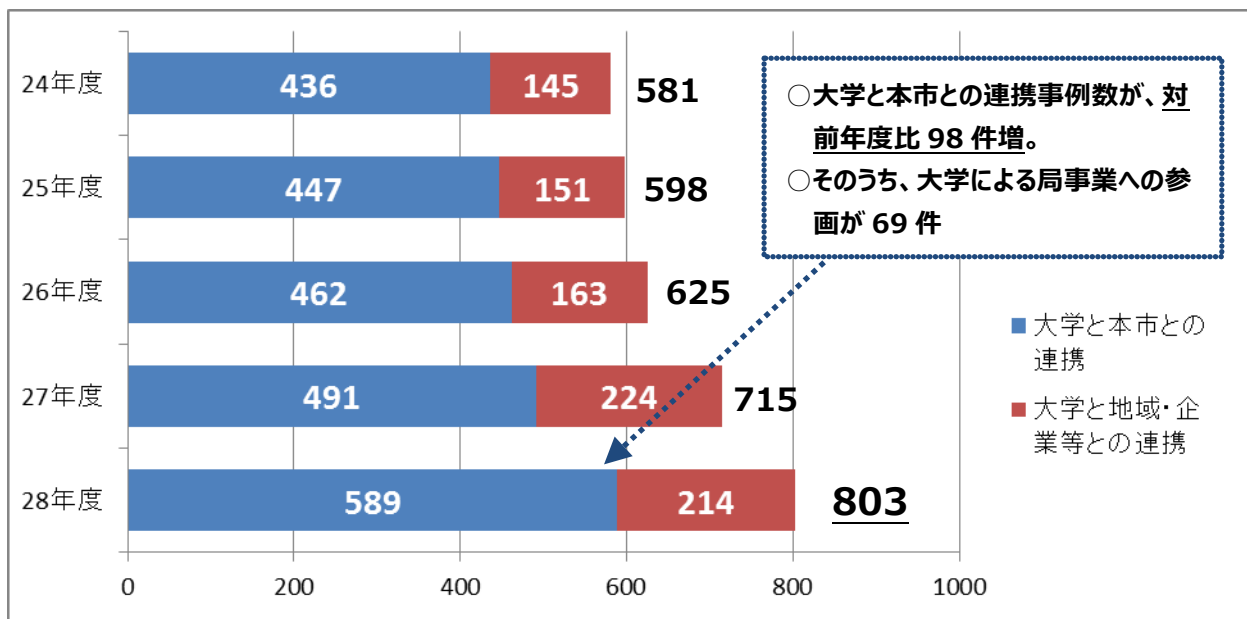
本市では、各大学のそれぞれの特徴を活かした研究力や学生のパワーを生かした、魅力と活力に満ちた「学術都市・横浜」の実現に向け、大学と地域・企業・本市との連携による地域社会づくりを進めています。

こうした取組を効果的に進めるため、市内大学と本市では、「大学・都市パートナーシップ協議会」を平成 17 年に設立し、連携して様々な事業に取り組んでいます。

平成 28 年度では、大学と本市との連携が 589 件、大学と地域・企業等との連携が 214 件であり、合計で 803 件と、はじめて 800 件を超えました。

年々、事例数は増加傾向にあり、大学と連携した取組は着実に進んでいます。

＜連携事例数の推移＞



◆ 連携事例の詳細については、本市ホームページ上でご覧いただけます。 **大学都市ヨコハマ** で検索

URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/daigaku/partnership/>

【大学・都市パートナーシップ協議会 参加 28 大学（50 音順。平成 29 年 4 月 1 日現在）】

神奈川大学／鎌倉女子大学・短期大学部／関東学院大学／慶應義塾大学／國學院大學／湘南医療大学／情報セキュリティ大学院大学／昭和大学／星槎大学／玉川大学／鶴見大学・短期大学部／桐蔭横浜大学／東京藝術大学大学院／東京工業大学／東京都市大学／東洋英和女学院大学／日本体育大学／フェリス女学院大学／放送大学／明治学院大学／八洲学園大学／横浜国立大学／横浜商科大学／横浜女子短期大学／横浜市立大学／横浜創英大学／横浜美術大学／横浜薬科大学

◆ 平成 28 年度の主な連携事例 ◆

○横浜市立大学・京浜急行電鉄・金沢区

「空き家利活用プロジェクト」(大学・企業・本市連携)

金沢区内の築 40 年の空きアパート所有者から利活用の承諾を受け、横浜市立大学まちづくりコース(担当: 齊藤広子教授)の実習授業として、**【シェアハウス完成前の状態】**学生の皆さんが、コスト計算、利用ニーズ調査等を行い、7つのリノベーションプランを提案。成果発表会で、京急電鉄賞を受賞した「留学生と日本人学生が入居するシェアハウス」のプランのコンセプトをベースに、京浜急行電鉄グループが中心となってリノベーションを担いました。現在、留学生 5 人、日本人学生 3 人が生活しており、学生と地域住民との交流の場としても活用を検討しています。



【空き家の現地調査の様子】



【成果発表会の様子】



【完成したシェアハウス】

○フェリス女学院大学・相鉄グループ

「電車の到着を知らせるサイン音の試験導入」(大学・企業連携)

相鉄いずみ野線の緑園都市駅で、今年 3 月から電車の到着を知らせるサイン音が試験導入されています(快速上り・下り、各停上り・下りと、到着する電車によってサイン音が異なります)。

緑園都市駅では、2 階構造で、1 階の改札には電車の到着時刻や行先を知らせる表示器がないため、通学でこの駅を利用しているフェリス女学院大学の学生内では、どの電車が到着したのか、わかりづらいとの意見が多かったそうです。この状況を改善するため、同大学音楽学部音楽芸術学科の音環境デザインゼミ(担当: 船場ひさお講師)の皆さんがサイン音の導入を相鉄グループへ提案。相鉄グループ社員と学生の皆さんで、議論や実地検証を重ねた結果、試験導入が実現されています。駆け込み乗車の防止など、安全な駅環境の推進に学生が貢献しています。



【音環境デザインゼミの教員と学生の皆さん】



【実地検証を行う相鉄グループ社員と学生の皆さん】

お問合せ先

政策局大学調整課長 森田 英樹

Tel 045-671- 4271